

1 ねらい

- (1) 小中学校の指導法の継続性、学習内容の系統性のある教育活動を推進し、教育活動全般における教育効果を高める。
- (2) 小中学生の異年齢交流により、児童生徒の社会性や感性を育む。
- (3) 小中学校の教員が、それぞれ異校種における教科指導や生活指導等を経験し情報交換することにより、発達段階に応じた教育内容や指導方法の工夫ができるようにする。

2 研究内容

- (1) 小中連携コーディネーターを中心に、交流授業、交流日、小中合同研修会を企画実施し、自校の教育に生かす。
 - ① 小中それぞれの教育観、教育活動を知る。
 - ② 教科内容の系統性を確認する。
 - ③ 互いの指導法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り、生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
 - ① 児童・生徒指導の継続性について、情報交換する。
 - ② 個人情報の有効活用によって、個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもがふれあうことにより、社会性など様々な感性を育む。
 - ① 児童・生徒が環境の変化に対応できるよう、柔軟な心づくりに努める。
 - ② 小学生が安心して中学校へ進学できるよう、早期より中学校の教育活動内容に慣れるよう工夫する。
 - ③ 小中合同で活動する授業を取り入れ、思いやりやあこがれの気持ちを育て、子どもの主体的な活動の活性化を図る。

3 具体的な取り組み

(1) 各校への小中連携教育コーディネーターの位置づけ

今年度より各校の校務分掌に小中連携教育コーディネーターを位置づけていただき、推進役となっていた。教員の1日体験研修や児童生徒の交流等の際に、連絡調整等をしていただいたことで、スムーズな交流ができた。

(2) 中学校区における連携研修の実施

① 教員の「1日体験」研修

[感想]〈中学校勤務の先生→小学校で体験〉

- ・小学校は、時間がゆっくり流れている感じがした。中学校側では、この辺も考慮して入学時の指導を進めなければならないと感じた。
- ・児童一人一人の学習内容の定着を丁寧にチェックし、熱心に指導することが求められている。それを実践している小学校の先生の姿が、とてもすばらしいと感じた。
- ・小学校の授業から、中学校の授業で使えるアイデアをいろいろ学ぶことができた。
- ・小学校では生活指導などのきめ細かな指導を継続して行って児童を成長させている。中学校では、その子どもの良いところをさらに伸ばせるよう指導していきたい。

- ・読書活動など，小中学校で同様の活動が継続的に行われていることを知った。
- ・小学校の授業は，わかりやすいめあての提示や挙手，発表のしかた，机上の準備物，姿勢などの細かい学習訓練を意識して授業を展開している。これらは是非中学校でも連携して取り入れられるとよいと思う。
- ・教員の1日交流は，お互い大変だが，できるだけたくさんの教員に交流の機会が与えられると良い。

〈小学校勤務の先生→中学校で体験〉

- ・あいさつや整列など，規律正しく整然とした中学生の様子や指導する先生の様子を知ることができた。
- ・学習内容が難しく，スピードも速いと感じた。小学校においてもそのスピードに追いついていけるよう，意識して指導したいと思う。
- ・あいさつやげた箱の靴の入れ方，自転車の並べ方などからも日頃の生活態度のよさが見えた。また，先生方の指導の丁寧さを感じた。
- ・中学校の先生方が熱心に真摯な態度で生徒に対応している姿を見て，感謝の気持ちをもった。進路指導や生徒指導など，小学校の教師ではわからない切迫した課題に対応する先生方には頭が下がる思いである。
- ・授業を参観し，小学校とのつながりが見え，系統性を感じることができたと同時に，日々の授業をおろそかにできないと思った。
- ・1日交流で行かれる先生も，交流に行かれた先生のクラスを補教する先生にとっても，負担が大きい。交流に来る先生を受け入れる側も，準備等の負担がある。

②夏休みの合同研修会（情報交換会）を中学校区で実施

中学校区	実施期日等	会場
南河内中学校区	8月2日（火）	道の駅しもつけ（研修室）
南河内第二中学校区	8月3日（水）	石橋公民館
石橋中学校区	8月2日（火）	石橋中学校
国分寺中学校区	8月2日（火）	国分寺中学校

〔感想〕

- ・9年間を見据えた教育のイメージが，少しもてるようになった。
- ・「小中連携」というフレーズをよく耳にする状況の中で，少しずつ先生方の意識が変わってきたこと。知りたい，知る必要があると感じ始めてきた。
- ・中学校での様子を知ること，小学校のうちに身に付けた方がよいことなどを，共通理解することができた。
- ・中学校の先生との話で，小学校とのギャップを感じたが，それを埋めるための話合いができたことが良かった。
- ・小学校に通う児童の実態が，中学校の現場で起きている悩みと共通する部分が多いこと。また小中が連携しないと解決できない問題が多くあることが認識できた。
- ・情報共有の場・機会が少ない。1回限りの情報交換では，成果としてはあげられない。回を重ねていく必要がある。
- ・児童生徒指導，学習指導等において，発達段階による指導方法を明確化していく必要がある。
- ・大切さは理解しているが，日々の校務に追われ，なかなか時間の確保が難しいのが現状である。
- ・合同研修会では，話合うテーマについて検討する必要があると共に，事前に知らせてもらえると，準備をしてさらに有意義な話合いになると思う。

(3) 中学校区における児童生徒の交流事業の実施

①合唱の発表等を通じた交流

[石橋中学校区の交流]

- ・入学説明会での交流：中学校生活についての話を聞いた後に歌を発表しあった。



〈熱心にビデオを見る小学6年生〉



〈中学生がすばらしい歌声を披露〉

[南河内中学校区の交流]

- ・中学3年生3クラスが1クラスずつ3つの小学校を訪問した。



〈中学校生活の様子を劇仕立てで発表〉



〈小学校の学習発表会で歌を披露〉

[南河内第二中学校区の交流]

- ・合唱コンクールで金賞・銀賞になった学級が2つの小学校を訪問した。



〈コンクールの合唱曲を披露〉



〈小学生も歌のお返し〉

[国分寺中学校区の交流]

- ・ 中学3年生が小学校を訪問した。



〈コンクールので歌った曲などを披露〉



〈国西小児童からのお礼の寄せ書き〉

②英語・外国語活動を通じた交流

- ・ 国分寺小学校の6年生と国分寺中学校の1年生が英語の授業を合同で行った。中学校で使うものを買うという買い物ゲームの中で6年生の買い物を中学1年生の生徒がサポートする。お店の係の生徒や6年生をサポートする生徒と買い物をする6年生がうまく関わり合って買い物ゲームを楽しんだ。



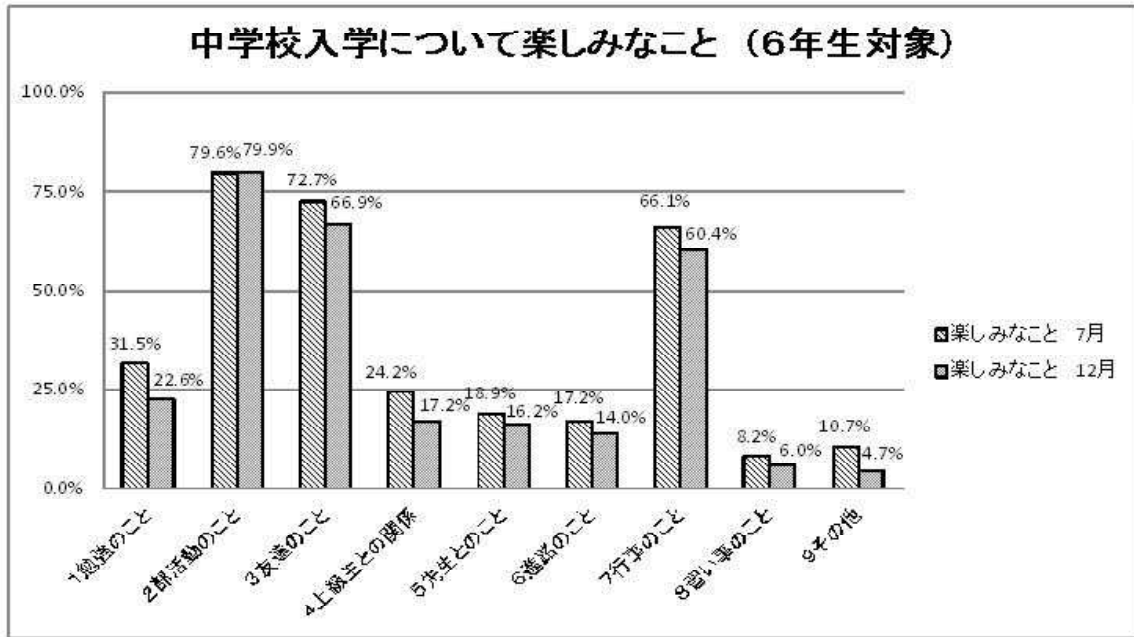
(4) 公開授業や授業研究会を通じた連携

要請訪問やS & Uコラボ事業の研究授業等の際に、実施校より案内を出していただき、研究授業を通しての交流を進めた。

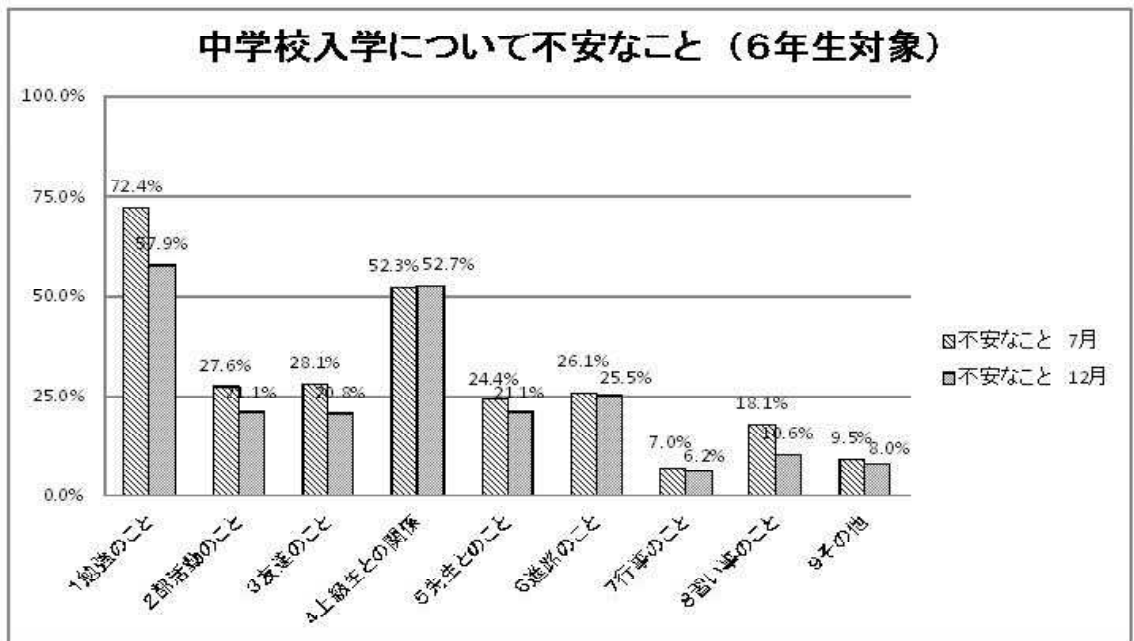
今年度、他校の研究授業を参観した教員は、延べ174人。市内の教職員の約半数の教員が他校の授業を参観したことになる。この取組により、1日交流に参加していない教員も異校種の授業を参観することができ、実態を見るよい機会となった。

(5) 児童生徒へのアンケート通した実態の把握

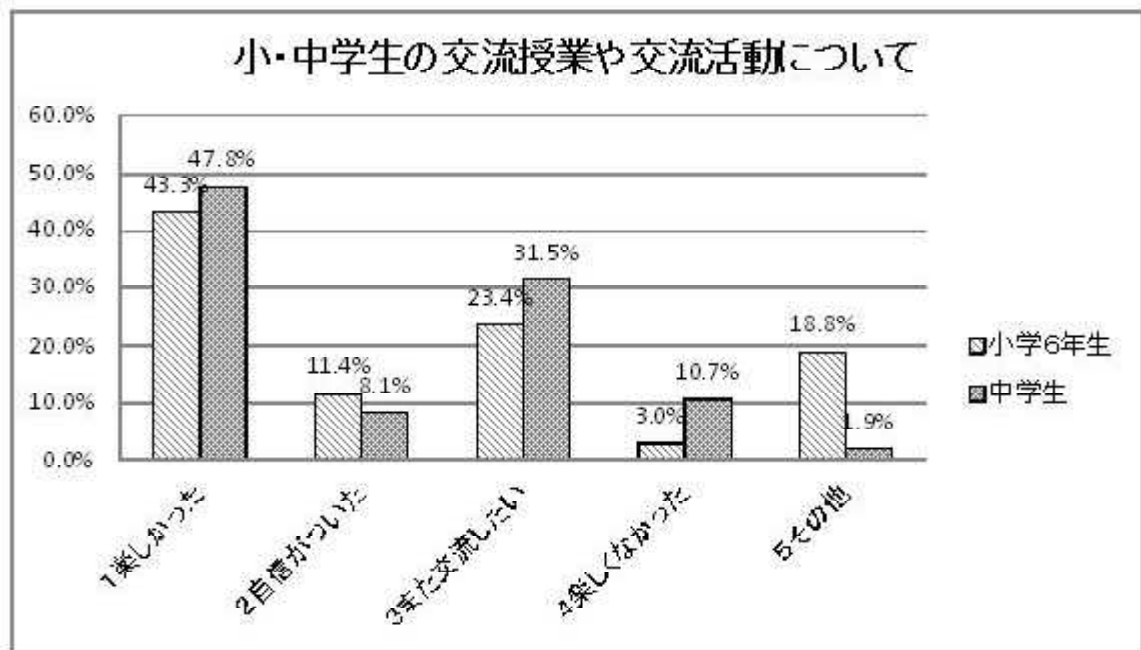
小学6年生を対象に、中学入学にあたり、楽しみに思っていることと不安に思っていることのアンケート調査を実施した。1回目は7月までに実施し、2回目は児童生徒の交流の後、12月頃実施した。



楽しみにしていることの上位は部活動のことが一番多く、次いで友達のこと、行事のこととなっている。中学校入学が近づき、12月の数値はやや下がっているが、その中でも部活動の数値は上がっており、子ども達の中で部活動に対する希望や期待が大きいことがうかがえる。このことから部活動での自己表現が子ども達の気持ちの中で占める割合が大きいことがわかる。



小中交流を実施した後ではほとんどの項目で数値が下がっており、特に勉強や部活動への不安が和らいだ様子が見られる。不安の中身は英語の勉強や学習についていけないか不安だという内容が多かった。また、部活動のことを楽しみに思っている反面、部活動内の人間関係を不安に思っていることがわかる。



児童生徒の交流は、小学生中学生とも、自信につながった児童生徒は少なかったが、楽しい時間を過ごすことができ、また交流したいという意欲を感じることができた。また、小学生以上に中学生が楽しんで交流できた。

3 成果と課題

[成果]・今年度から全小中学校に推進役として小中連携コーディネーターを位置づけたことによって夏の合同研修会や児童生徒の交流会のスムーズな実施が可能になった。

- ・全中学区における小中合同研修会を夏休みに実施できた。この研修と一日交流研修において、多くの教職員が交流の必要性を実感できたとともに、様々な機会を通して相互理解を図り、児童生徒の指導に生かしていくことが大切と感じるようになってきた。
- ・昨年度の課題でもあった児童生徒へのアンケートが実施により交流の成果を確認することができ、児童生徒について9年間をという連続した発達成長を理解する上でも一つの資料となった。
- ・全中学校区において児童生徒の交流事業が実施され、児童生徒がふれあうことで中1ギャップの不安を取り除くための一つの手立てになったと言える。
- ・国分寺小学校と国分寺中学校において合同授業が実施できた。時間の調整や授業内容についてなど課題となることはあるが、回数を重ねることによって改善し、さらに充実するものと思われる。

[課題]・教職員の交流、児童生徒の交流、ともに時間の確保が難しい。コーディネーターを中心に年間を通して早めの計画立案が必要である。

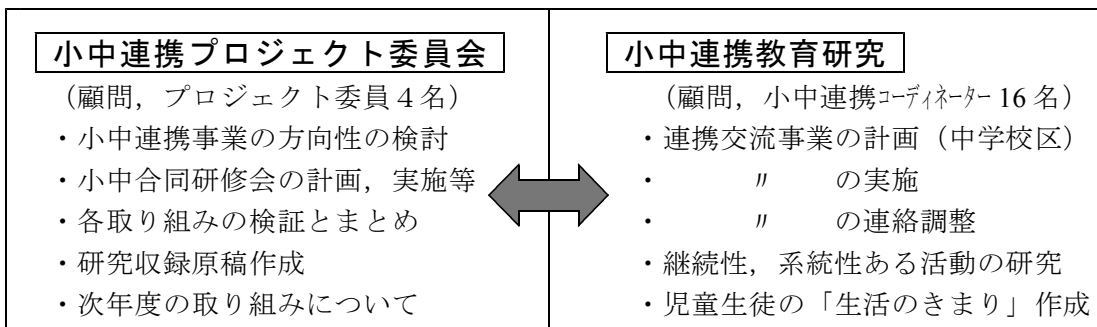
- ・教職員の合同研修への参加は、できるだけ多くの教職員の参加が望ましいことから時期として夏休みが適当と思われるが、8月の中旬の中学校では部活動の大会等で参加できない先生がおり、参加しにくい状況がある。
- ・各種交流において、内容を充実させていく必要がある。また、内容も話し合う分野やテーマを絞る必要があるという多くの意見があった。

1 ねらい

- (1) 小中学校の指導法の継続性、学習内容の系統性のある教育活動を推進し、教育活動全般における教育効果を高める。
- (2) 小中学生の異年齢交流により、児童生徒の社会性や感性を育む。
- (3) 小中学校の教員が、それぞれ異校種における教科指導や生活指導等を経験し情報交換することにより、発達段階に応じた教育内容や指導方法の工夫ができるようにする。

2 研究内容

- (1) 小中連携コーディネーターを中心に、交流授業、交流日、小中合同研修会を企画実施し、自校の教育に生かす。
 - ① 小中それぞれの教育観、教育活動を知る。
 - ② 教科内容の系統性を確認する。
 - ③ 互いの指導法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り、生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
 - ① 児童・生徒指導の継続性について、情報交換する。
 - ② 個人情報の有効活用によって、個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもがふれあうことにより、社会性など様々な感性を育む。
 - ① 児童・生徒が環境の変化に対応できるよう、柔軟な心づくりに努める。
 - ② 小学生が安心して中学校へ進学できるよう、早期より中学校の教育活動内容に慣れるよう工夫する。
 - ③ 小中合同で活動する授業を取り入れ、思いやりやあこがれの気持ちを育て、子どもの主体的な活動の活性化を図る。



児童生徒のよりよい成長のために

教師サイドの連携強化	児童生徒サイドの交流
<p>☆小中学校の教師が連帯感を持ち、小中学生を育てようという意識を持つために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の交流① (1日交流：中学校区における交流) ・教職員の交流② (小中合同研修会) ・研究授業等の公開 (参観交流：学区問わず) ・「生活のきまり」の作成 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>9年間の段階に応じた、継続的指導 (一貫性を持たせる)</p>	<p>☆小学生にとっては中学校への不安感をなくしスムーズなつなぎができるように、中学生にとっては、自己有用感を持たせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱等の発表会 ・6年生への中学校案内 ・出身小学校での合同清掃・美化活動 ・合同あいさつ運動 ・中学校体育祭・文化祭等への小学生の招待 ・部活動体験

3 具体的な取り組み

(1) 中学校区における連携研修の実施

① 教員の「1日体験」研修

[感想]〈中学校勤務の先生→小学校で体験〉

- ・落ち着いた様子で授業を受けていた。どの教師もねらいを明確に授業をおこなっており、児童も良く話しを聞いていた。
- ・小6の英語の授業をT1で参加した。きらきら輝く瞳で授業に臨んでくれた。生き生きと英語を話し、コミュニケーションの素地を養う授業ができたと思う。
- ・T3で入った体育やT1で授業を行った算数ではみんなとても意欲的で目を輝かせながら授業に取り組んでいる姿を見て、小学生の意欲の高さを実感することができた。
- ・全体としては、小学校では中学校に比べ、先生方が1日を通して観るので子ども達の様子や雰囲気に合わせて活動ができるが、中学校では時間の流れも学習の流れも速いことに気づいた。1年生を迎えるときの心構えにしておきたいと思う。
- ・算数の授業では、5・6年生の内容が増えたことがわかりました。内容が増えたことにより、今までのように定着させたり問題演習をくり返し行ったりする時間が十分に確保できていない問題や、その一方で考える力や図、ことば、表を使って表したり説明したりする能力が求められている実態もわかった。
- ・配慮を要する子どもも学級に在籍していたが、昨年からクラス替えもないので、みんなが温かく受け入れている感じがあった。
- ・小規模校、複式学級の学校を初めて体験しました。先生方の校務分掌の担当する数も多く、出張が毎日のように続く先生も居た。こういった実態もまったく今までは知るよしも無かったことなので、いい体験となった。
- ・小学校では、保護者と連絡を取る機会が多く、細かな事柄に関しても保護者と連絡を密にしているということに感心した。また、担任の先生が各教科においてさまざまな学習訓練を行っており、その行き届いた指導ぶりに頭が下がる思いがした。
- ・小学校の現状等についてお話を聞くことができたことも大変ありがたかったです。私自身、多くの授業を参観させていただいて大変勉強になることが多かったです。
- ・とても児童数が少なく、兄弟のようなあたたかい校風のなかで育ってきた素直な子どもたちを決して不登校にはしたくないので、今後も小学校と連携をとっていきたいと思います。
- ・人前でしかられるのは、反感を持ってしまうので、場所を変えて指導する等、細かい部分に気を配り子どもたちをよくみていることがわかった。中学生相手でも、同様の気配りは必要であると感じ、たいへん勉強になった。

(小学校勤務の先生→中学校で体験)

- ・規律や秩序を守りつつも伸びやかな雰囲気の中で学習し、生活する中学生の姿は素晴らしく、六年生の子どもたちが目指すべき方向性を具体的に知ることができ、大変有意義だった。
- ・入学に際して、中学で迎えてくださる先生方が、子ども達の自尊感情を高めてくださるような温かな雰囲気(環境)をつくっていることを、改めて感じた。
- ・勉強したはずだと言わず、繰り返し学習することが必要であると思った。
- ・小学校でも、日頃から聞く姿勢を指導しているが、中学校でもその姿勢が生かされているため、継続して指導する重要性を実感することができた。
- ・今回の事業で研修させていただいたことを、小学校に帰ってから子どもたちに伝え、中1ギャップにならないようにしていきたいと思った。
- ・一番感心したのは、清掃。「自問清掃」と銘打って黙って清掃をするのだが、無言で清掃するだけでなく、廊下のシミや階段の手すりなど細かいところまで進んで清掃していた。とても立派な活動なので、ぜひ小学校でも生かしていきたいと思った。

- ・参観という形でも、生徒やクラスの様子はよく見えるので、このやり方で十分だと思う。
- ・小学校でも出授業で雰囲気が変わってしまうことがあるので、どの先生からも学ぶという意識を育成させていくことが中学校への連携にもなると感じました。
- ・あいさつがしっかりできること、教師の指示がよく徹底することなど、学校全体で共通理解、共通指導がなされていた。その結果、落ち着いた雰囲気があり生徒の向上心を感じた。
- ・小学校を卒業した子どもが、どのように中学校で学校生活を送るのか直に見ることににより、小学校で身につけておいた方がよいことが、学習面、生活面ともにはっきりとイメージすることができた。

②夏休みの合同研修会（情報交換会）を中学校区で実施

中学校区	実施期日等	会 場
南河内中学校区	8月1日（水）	南河内東公民館（研修室）
南河内第二中学校区	8月2日（木）	道の駅しもつけ（研修室）
石橋中学校区	8月1日（水）	石橋中学校
国分寺中学校区	8月1日（水）	国分寺中学校

[感想]

- ・講話を聞いて宇都宮市の「地域学校園」の考え方がよく分かった。組織化され、乗り入れ授業も行われているところがよいと思う。
- ・枠組みからしっかり作り、年間を通して複数回関わることは、大変だが意味のあることに思う。連携の大切さを感じる講話だった。
- ・講話では、小中の違いの話が良かった。具体的な指導の話もあり、参考になった。
- ・各校の取組を聞き、情報交換ができ、有意義だった。（多数）
- ・小中の指導内容の相互理解が図られ、一層、各学校での指導内容が明確になった。
- ・小学校での指導を受け、中学校の指導方法を変化させようと思った。
- ・生活ガイドの検討で、具体的な場面について話ができとてもよい機会だった。
- ・9年間を見通した教育課程編成の大切さがよく分かった。
- ・同じ地区であっても小学校区ごとの地域差が大きいことが分かった。
- ・教科指導に関して、中学校の専門の先生方にアドバイスをいただき、有意義だった。
- ・生徒が小学生の時の様子や保護者のことについて聞くことができ、良かった。
- ・学習の系統性について、どのような指導をしているのか意見交換する機会があると良い。
- ・特別支援教育の場を設定して欲しい。強く要望する。
- ・中学校の実情を聞きたいと思い児童生徒指導部会を選択したが、4名中3名欠席だった。これでは交流事業の深まりがない。もっと真剣にやって欲しい。
- ・2年目という事もあり、昨年よりよく話せた。来年度はバージョンアップのため、単発1日だけでなく事前準備が必要であろう。



(2) 中学校区における児童生徒の交流事業の実施

[南河内中学校区の交流]

- ① 11/17 (土) : 中学校授業参観 (小学6年生児童保護者向けにも公開)
- ② 1/11 (金) : 生徒会本部役員による新入生への中学校説明会と部活動見学会



〈中学校の学習や生活について説明〉



〈自転車の具体的な扱い方について説明〉

《成果》

- ・中学校説明会は、小学6年生にとって非常に有意義だったことが事後のアンケート結果から分かった。中学校入学を間近に控えた小学6年生にとって、中学校の学習や生活について不安が大きい。実際に中学校へ来て、自分たちの疑問について中学生から回答してもらったことが不安を解消し、中学校へ入学することが楽しみになった様子であった。
- ・中学生にとっても、小学生に説明をすることは楽しかったようである。自分たちの日々の活動を堂々と説明する様子からは、自信が感じられた。
- ・初めて行った新入生への中学校説明会が計画段階からスムーズに進められたことから、各学校の担当者同士の連携のよさを改めて確認できた。小中連携を進めるにあたって大切なことである。

《課題》

- ・学校間の距離があるので、移動に時間がかかることである。1単位時間の活動をするには倍以上の時間がかかる。

[南河内第二中学校区の交流]

- ・小中交流音楽集会：南河内第二中合唱コンクールで金賞・銀賞になった2つの学級が、祇園小と緑小で合唱を披露した。



〈コンクールの合唱曲を披露〉



〈すばらしい歌を聴く小学生〉

- ・南河内第二中説明会：祇園小と緑小の6年生，保護者が合同で二中にて中学校の説明を聞いた。



〈熱心に説明を聞く小学生〉



〈中学校生活の様子を説明〉

《成果》

- ・合唱の交流は2年目ということもあり，昨年の課題を踏まえた計画を作成できたことによって，時間的にもスムーズで，よい交流ができた。
- ・中学校会場での南河内第二中説明会は，6年生にとって非常に有意義だった。中学校の施設において行われた説明会であるため，入学を前に，不安を取り除く取り組みとして有効であった。

《課題》

- ・小中学校は比較的距離が近いが，それでも移動には時間がかかる。また，移動の安全確保も課題である。

[石橋中学校区の交流]

石橋中学校区においては入学説明会で中学1年生と6年生が交流しました。まず全体会で中学1年生が学年合唱を披露し，その後，学校生活について6年生に向けて話しました。6年生は中学1年生の自主的な活動に見入っていました。

次に，下記の写真のように教科学習を小中学生合同で行いました。途中，中学1年生が6年生の面倒を見ながら授業を進めるなど，活発に交流する姿が見られました。



体育の集団行動を一緒に行う小中学生



社会の国名当てクイズを行う小中学生

《成果》

- ・教科学習を小中学生合同で行うことで，6年生は中学校での体験授業を先輩のリードで行うことができ，中学校の様子を具体的に理解できたと思われる。

《課題》

- ・できれば他学年も交流できるような活動を実施していきたいが，小中学校同士の時間，場所，内容の調整等が難しい。

[国分寺中学校区の交流]

①合唱の発表等を通じた交流～中学3年生が小学校を訪問した。



〈コンクールで歌った曲などを披露〉



〈国西小児童からのお礼の寄せ書き〉

②小中合同による月に1度の朝のあいさつ週間



《成果》

- ・今年度もほとんどの交流を継続して実施することができた。特に、隣接する国小・国中の交流はさかんで、左の写真にある「小中合同のあいさつ運動」は、今年度で3年を経過した。

《課題》

- ・昨年度実施した英語の合同授業ができなかった。児童・生徒のコミュニケーションを図る交流を増やしていきたい。

(3) 英語・外国語活動を通じた交流

- ・緑小学校の6年生と南河内第二中学校の1年生が英語の授業を緑小体育館にて合同で行った。中学校で使うものを買うという「買い物ゲーム」の中で、6年生の買い物を中学1年生の生徒がペアのアシスタントや店員としてサポートした。



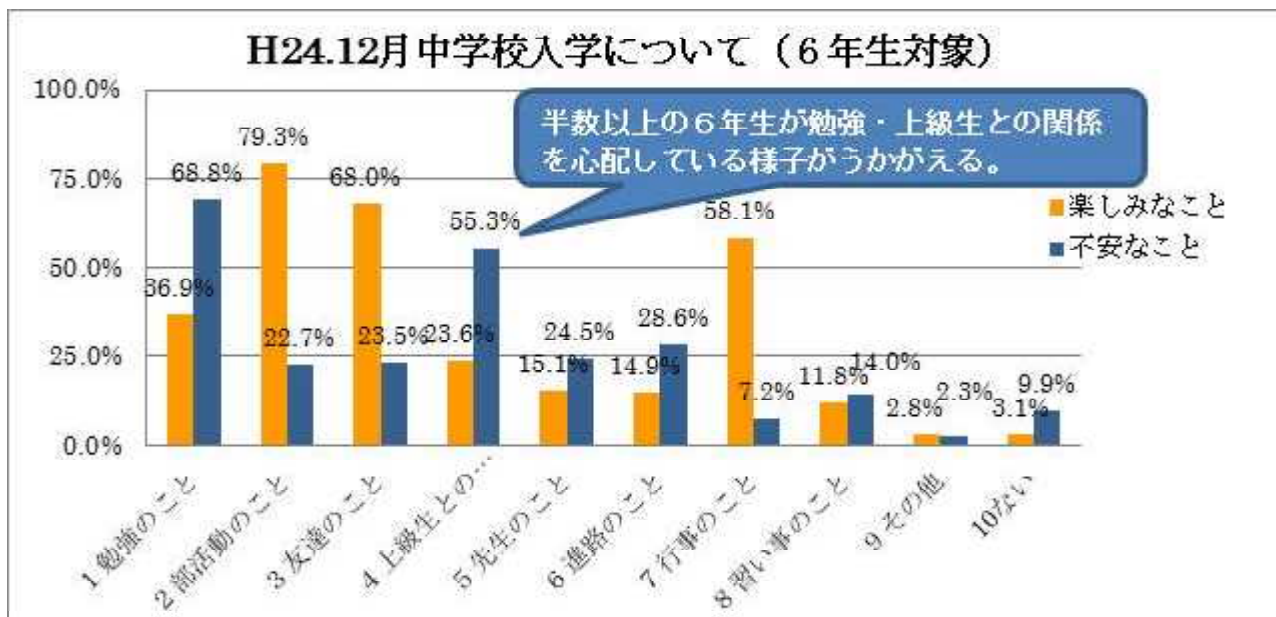
[成果]

- ・店員の生徒や6年生をサポートする生徒と買い物をする6年生が、上手に関わり合って買い物ゲームを楽しむことができた。中学校の先生や中学生と共に学習することで、中学校への抵抗感が減ると思われる。中学生も先輩としての自覚や後輩への好意的な気持ちが育っているようである。
- ・他クラスでの事前授業の課題が本時に活かされ、活動の流れがスムーズになった。児童や生徒の実態を互いに知り、共に教材研究を深めることができた。
- ・23年度は国中一國小、24年度は南河二中一緑小で実施した。25年度は石中学区で交流授業研修会を進めていく。

- [課題]
- ・ 国中一 国小での実践の指導案はあるが、地区や児童生徒の実態に合わせた指導案に変えていくことが大切である。負担が大きくなるように、前年度の指導案を参考にする。
 - ・ 今回の指導案の内容は、中学生が小学校に来るより、小学生が中学校に行った方がよい交流になったであろう。小学生が中学校に行くことが可能なら、その方がよい。
 - ・ 交流授業に向けて準備や練習の時間が必要である。しかし実際は授業の時間的な負担が大きい。また、中学校では全クラスの実施ではないので、交流するクラスとしないクラスの負担の差や子どもたちの経験の差が出てしまう。

(4) 児童生徒へのアンケート通した実態の把握

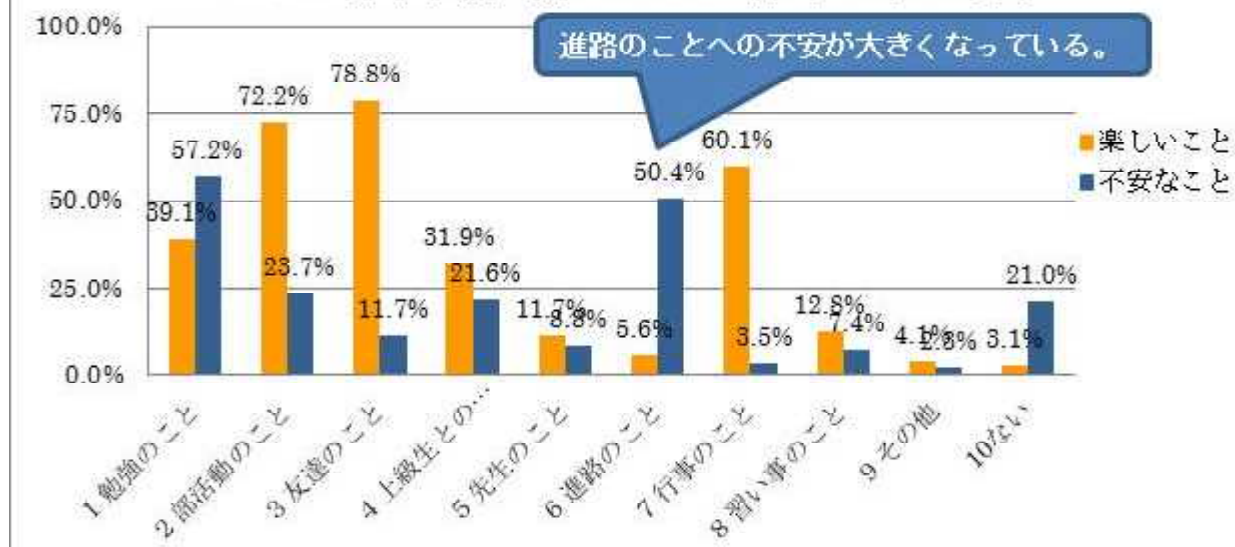
- ・ 小学6年生には中学入学について、中学1年生には入学後の学校生活についてアンケートを実施した。6月と12月に同じ内容で実施し、児童生徒の変容も考察したいと考えた。



<6年生の結果より>

- ・ 勉強や上級生との関係を心配する姿うかがえる。勉強の中でも数学と英語を不安に思う児童が多く、半数以上が挙げている。
- ・ 楽しみなことは部活動のことが最も多く8割近くの児童が部活動への期待や意欲を持っていることがうかがえる。また、友達のことや行事のことを楽しみにしている児童が半数以上いる。不安もあるが、それ以上に楽しみにしていることもあることがうかがえる。

H24.12月中学校生活について（中学1年生対象）



〈中学1年生の結果より〉

- ・ 勉強への不安はまだ半数を超える生徒は持っているものの入学前よりは減少している。
- ・ 上級生との関係においては、入学後、実際に学校生活を送る中で不安は解消される傾向にある。
- ・ 友だちや先生への不安についても入学前より数値が下がり、特に友だちとの関係を楽しみに考える生徒が増えていることが分かる。
- ・ 進路について不安を持つ生徒が入学前の2倍近くに増えている。中学1年生の6月の実施では約22%だったのが、12月では約50%と増えていることが分かる。

3 成果と課題

- [成果]
- ・ 教員の「1日体験」研修は、今年度で3年目となるが、異校種の学校での生活を体験することにより、より具体的に指導法の違いや子どもたちへの対応の違いを知ることができ、自校に戻ってからの活動に生かすことができた。
 - ・ 教員の「1日体験」研修において、中学校教師が小学校においてT1で授業を行ったり、互いにT2で授業行う体験が増えてきた。
 - ・ 合同研修会において、多くの教員が異校種の教員と交流することができ、学習や生活等について情報交換を行い、相互理解をすることができた。また、その必要性を実感した教職員が多かった。
 - ・ 小学生の中学校会場での入学説明会参加は、中学校をより身近に感じることができ、不安を払拭する良い体験の一つとなった。
 - ・ 緑小学校と南河内第二中学校において外国語の合同授業を実施することが実施できた。中学校の先生や中学生と共に学習することで、中学校への抵抗感が減ると思われる。中学生も先輩としての自覚や後輩への好意的な気持ちが育っているようである。
 - ・ 中学校ごとに「生活のきまり」を作成した。中学校区ごとの生活指導のスタンダードとして活用が期待される。
- [課題]
- ・ 毎年残る課題であるが、教職員の交流は、時間の確保が難しい。また、児童生徒の交流は時間の確保に加え、安全な会場異動の手段も課題として残る。
 - ・ 教職員の合同研修への参加は、昨年度と同じ時期の実施で、昨年度より参加者は増えたが、中学校の教職員は部活動の大会等もあり、参加しにくい状況もある。

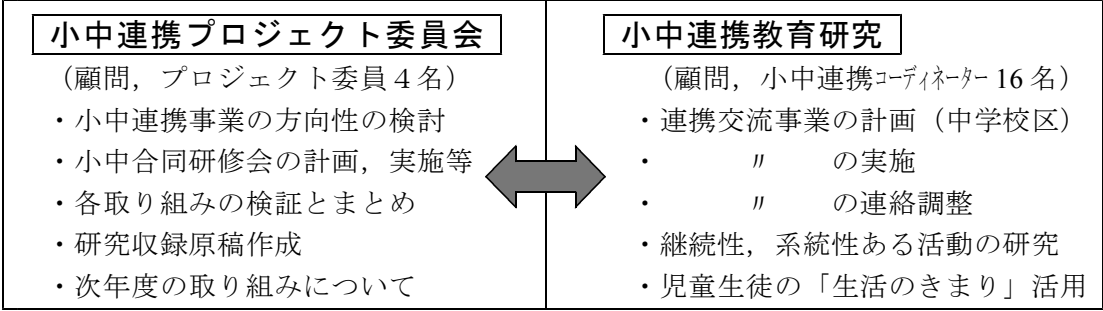
1 基本方針と研究推進の方向性

1 ねらい

- (1) 小中学校の指導法の継続性、学習内容の系統性のある教育活動を推進し、教育活動全般における教育効果を高める。
- (2) 小中学生の異年齢交流により、児童生徒の社会性や感性を育む。
- (3) 小中学校の教員が、それぞれ異校種における教科指導や生活指導等を経験し情報交換することにより、発達段階に応じた教育内容や指導方法の工夫ができるようにする。

2 研究内容

- (1) 小中連携コーディネーターを中心に、交流授業、教員1日交流、小中合同研修会を企画実施し、自校の教育に生かす。
 - ① 小中それぞれの教育観、教育活動を知る。
 - ② 教科内容の系統性を確認する。
 - ③ 互いの指導法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り、生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
 - ① 児童・生徒指導の継続性について、情報交換する。
 - ② 個人情報の有効活用によって、個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもがふれあうことにより、社会性など様々な感性を育む。
 - ① 児童・生徒が環境の変化に対応できるよう、柔軟な心づくりに努める。
 - ② 小学生が安心して中学校へ進学できるよう、早期より中学校の教育活動内容に慣れるよう工夫する。
 - ③ 小中合同で活動する授業を取り入れ、思いやりやあこがれの気持ちを育て、子どもの主体的な活動の活性化を図る。



児童生徒のよりよい成長のために

教職員間の連携強化	児童生徒の交流
<p>☆小中学校の教師が連帯感を持ち、小中学生を育てようという意識を持つために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の交流① (1日交流: 中学校区における交流) ○教職員の交流② (小中合同研修会) ○研究授業等の公開 (参観交流: 学区問わず) ○「生活のきまり」の活用 → 9年間の段階に応じた, 継続的指導 	<p>☆小学生にとっては中学校への不安感をなくしスムーズなつなぎができるように, 中学生にとっては, 自己有用感を持たせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合唱等の発表会 ○6年生への中学校案内 ○出身小学校での合同清掃・美化活動 ○合同あいさつ運動 ○中学校体育祭・文化祭等への小学生の招待 ○部活動体験 ○小中合同授業・体験授業

2 具体的な取組

1 中学校区における連携研修の実施

(1) 小中教員交流研修

① 中学校教員→小学校において1日体験

【感想】

- ・小学校の先生方のきめ細やかな指導を見習わなければならない。小学校の先生方は、できないからできるようにするという意識の中で取り組んでいる。また、「折り合い」をつける訓練にもなる言語活動の充実は中学校でも大切だと感じた。
- ・小学校は短時間で個別の児童指導を行っていて、学級担任が児童をよく把握していると思った。小学校の先生方のきめ細やかな指導を、今後の学級経営に生かしたい。少人数ならではの温かな雰囲気があり、1年生から6年生まで全員で取り組める環境は児童に安心感を与えていると思った。
- ・小学校での細やかな指導が見られ、中学校でも継続性を持って進めていきたい。先生と児童の距離が近く、先生に対しての信頼も大きいものだと思う。各教科においても、学習訓練が行われていて、そのスキルを中学校でも活かしていかななくてはならないと痛感した。
- ・児童は挨拶をきちんと行っていた。基本的な生活習慣の形成に関しては、小中学校連携して、今後も行っていくべきだと感じた。算数の授業でT1として授業に参加し、課題の過程を考えさせる授業を行ったが、細かい過程が書けない児童もいた。中学校の数学では、課題を解決するための過程が必要になるので、授業においてもより良い連携が図ればよいと感じた。
- ・低学年の授業では、個人差が大きく、全体を指導しながらも個に対応していくのはとても大変なことだと感じた。また、小学校での細かく丁寧な指導のベースがあって中学校での生活が成り立っていることを実感した。
- ・生活指導面で、小中で同じ方向性を持って指導していくことが望ましいと感じた。また、担任だけでなく、学校全体で児童生徒を見ていくことが大切なことであると思われる。
- ・目立っていたのは発達障害の疑いを持つ児童。対応が難しい児童であるため、小中で連携を取る必要性を感じた。
- ・それぞれの発達段階に合わせた丁寧な支援、継続性のある支援・指導がなされていた。最上級生として活躍している6年生の様子から、中学校でも1年生ではなく、7年生として自覚を持たせていく必要があると感じた。
- ・小学校で大切に育てていただいた児童を引き継ぐことになるので、今後も積極的な情報交換や小中交流を行い、継続した支援、また、先を見通した、足並みを揃えた就学指導につなげていければと思った。
- ・礼儀正しくルールやマナーをしっかりと守っている子どもたちの姿をみると、中学校でもその姿を大切にしていあげたいと改めて思った。授業中も少人数だからこその授業展開となっていて、誰もが意欲的に取り組もうとする姿勢を大人数になっても形を変えてできれば、もっとやる子とやらない子の意欲の差がつけられるのではないかと考えた。
- ・小学校の現場で授業をT2で参加したり、児童と交流したことがなかったので、とても新鮮だった。児童指導に立ち会うこともできたが、担任だけの指導にとどまることなく、学年全体で話したり、指導したりしたので、中学校の生徒指導と同じだと思った。
- ・ほとんどの児童が、板書等をノートによくまとめ、意欲的に学習に取り組んでいた。休み時間のドッジボール大会やプールの授業をととても楽しみにしていて、元気よく活動していた。
- ・児童達はとても元気で、楽しんで学んでいる様子が見られた。授業中も自分の考えを述べやすく、とても居心地の良さを感じているのが分かった。
- ・小学校での6年間の生活指導や学習指導の大切さ、先生方の指導の細やかさなどを感じることができた。基本的な生活習慣も、毎日細かいところまで手取り足取りあきらめることなく指導している。

②小学校教員→中学校において1日体験

【感想】

- ・中学生の実態や中学校での取り組みがたくさん見られ、とても勉強になった。どの教科においても、小学校で学んだことが活かされたり、活用したりしていた場面が多かった。小学校で学習していることが中学校で活かされていることを子どもたちにきちんと伝えたい。
- ・中学校は、小学校以上に制約された時間の中で多くの物事を進めなければならない前提があることを改めて痛感した。「6年担任の現段階で、子どもたちにできることは何か」という問いを自分で持った。「チャイムで時間内に」「1時間ごとのねらいを大切に」「この時間にできることを見据えながら」子どもたちを指導していくことが大切であると思った。
- ・中学校に入り、運動に勉強に熱心に取り組む姿はとても感心させられた。小学校が目指す方向性が見えてきた。中学校に必要な姿勢や態度について残りの小学校生活で身に付けられるよう指導したい。
- ・小学校で自分が担任して教えた生徒たちが、中学校の先生方より専門的な指導の中で力を伸ばし、元気に生活していたことを非常に嬉しく思った。生活指導の面では、指導の方針を学年等でこまめに打ち合わせすることで、どの先生も同じ指導ができるようにしているのを聞き、自分もそのようなことをより意識して指導していきたい。
- ・先生方の話し方や接し方は、思春期の生徒に対して程よく距離を保ち、伝えるべき事はきちんと伝え丁度良いと感じた。適切な指導が生徒の自主性を伸ばしているように感じた。6年生の頃とは、表情も内面も大人になった1年生の様子を見て、小学校で必要な指導、中学校で必要な指導の違いや大切さを感じた。
- ・コの字型の座席配置で行っており、ペア学習がしやすいように工夫されていることを知った。学習だけでなく、あいさつや給食のマナー、清掃の仕方等、生活面でも小学校から指導し、継続することが必要だと感じた。
- ・小学校よりも、英語の習得に重きを置いているため、生徒がより確実に英単語やキーセンテンスを習得できるよう、声に出して読んだり、ノートに書いて覚えたりする機会を多く設けていた。課題意識がぶれないよう教師自身が授業の中で勝負する意識を強く持っている。
- ・体育・数学ともにT2で参加させていただいたが、子どもたちは最初は人見知りして近づいてこなかったが、少し話しかけると色々話しかけてくれ、交流ができて良かった。
- ・どの教科においてもグループ活動を意識して授業されており、教材研究に大変時間をかけていると感じた。中学生が話し合い、教え合い、生き生きとしている姿を見ると嬉しくなった。挨拶をしっかりとる、3分前行動をする、清掃は黙ってやる等、大変成長を感じられるところである。
- ・印象深かったことは、あいさつ、移動、清掃、待機中の生徒の様子であった。全て上級生の指導が行き届いており、それに習うことで学校全体がきまりを守る雰囲気となっている。小学校でも、高学年が見本となることが最重要であると改めて感じた。
- ・朝から、気持ちよいあいさつで中学生が迎えてくれた。中学生の授業態度も良かった。学校全体で「学び合い」に力を入れており、グループで協力しながら学習を進めるスタイルが定着していた。
- ・中学校での授業や生徒の生活などが分かり、とても良い機会となった。小学校から中学校へつなげられるように、学業指導や生活面での指導において心がけることが見えてきた。

(2) 小中教職員合同研修会

中学校区	実施期日等	会 場
南河内中学校区	7月31日(水)	南河内東公民館(研修室)
南河内第二中学校区	8月6日(火)	道の駅しもつけ(研修室)
石橋中学校区	8月1日(木)	石橋中学校
国分寺中学校区	7月31日(水)	国分寺東小学校

【各部会による情報交換の評価】 4(高) ←→ 1(低)

	4	3	2	1	無記入	計
小学校	86	48	2	0	8	144
中学校	37	29	0	0	3	69
無記入	0	0	0	0	2	2
計	123	77	2	0	13	215
%	57.2	35.8	0.9	0	6.1	

【講話の評価】 4(高) ←→ 1(低)

	4	3	2	1	無記入	計
小学校	24	30	10	0	1	65
中学校	20	19	4	1	0	44
無記入	0	0	0	0	1	1
計	44	49	14	1	2	110
%	40	44.6	12.7	0.9	1.8	

【感想】

- ・いろいろな面から小中連携が図れてよかった。
- ・学習内容の系統性を確認したり、課題を明らかにすることができた。小学校で基礎力をつけて中学校へつなげていくこと、教科の系統性を理解して指導することが大切であると改めて感じた。どこが困っているところなのか、中学校の先生に聞くことができたので、そこを重点的に指導して中学校に送り出したい。
- ・小学校の先生が中学校の英語の模擬授業を体験する、中学校の先生が小学校の教科書を見るなどできるとよい。
- ・中学校の教科専門の講話、講習、授業支援があるとありがたい。
- ・中学校での自主学習の取り組み方がわかった。高学年の自主学習の指導に生かしたい。
- ・事前準備資料「学区のよさや課題」を持ち寄っての話合いだったので、問題意識をもって参加できた。それぞれの意見に対し共感することも多く、とても勉強になった。
- ・小学校間での情報交換ができ、大変貴重であったが、部会に中学校の先生がいなかったことは残念であった。小学校教員として考える「つながり」について話すことは有意義であった。
- ・小中それぞれの発達段階に即し、何をどのように行っていくのがそれぞれの役割を果たすことにつながるかを共同で考えることができた。
- ・特別活動の取り組みについて各校の様子を知り、参考になった。委員会活動、クラブ活動、縦割り班での活動などの小中連携も必要だと思った。中学校が望むリーダーと小学校で考えるリーダーはずれがあり、考えていく必要があると思う。小学校では、中学校で求めるリーダーになるための素地を育てる工夫と努力をしなければと思う。

- ・中学生，中学校の実態にふれるきっかけになり，勉強になった。小学校での問題は中学校につながっていることも分かり，しっかり小学校のうちに指導しなければならないこともあると思った。（携帯電話の正しい利用の仕方）
- ・小学校の低学年～高学年までの指導の仕方が異なり，工夫していることがわかった。基本的な生活習慣を身につけることは，どの学年を通じても行っていかなければ，なかなか身につかないことだと感じた。小学校の成長の様子をもっと知ることができれば，中学校の指導に役立てられると思った。
- ・こういう場でなくても情報交換できるようになるとよい。たとえば気になる児童生徒の家庭環境や，小中共通のあるいは協調して問題解決を図っていききたいことなど。プチ情報交換でもよいので継続していけることが大切。
- ・小中連携で出してもらった「生活のきまり」が大変ありがたい。あいさつ，靴箱の指導など，「生活のきまり」の具体性を生かして指導している。
- ・講話で，小中の連携により9年間を生き生きと活動する様子がたいへんよくわかった。「小中連携で無理に何かを作り上げるのではなく，小中の先生方が一緒にいる時間を持つことが大切」まさにそうだと思った。
- ・小学校とはあまり関係のない話に思えたが，子どもたち一人一人とじっくり関わることや面談の有効性等，小学校教員にも大切なことをたくさん学ぶことができた。学力向上のために行ったのが学習指導ではなく面接指導であったということが衝撃的であった。



2 中学校区における児童生徒の交流事業の実施

(1) 南河内中学校区での交流

① 中学校授業参観 (小学6年生児童保護者向けにも公開) 11/16 (土)



<保護者と一緒に授業参観>



<廊下からのぞき込む児童も>

児童45名、保護者30名の参観となり、関心の高さが窺えた。
「中学校は大変だと思っていたけれど、楽しそうな授業だった。」
「入学するのが楽しみになった。」

② 下野市子ども未来プロジェクト事業啓発 12/4 薬小 12/5 吉西小 12/9 吉東小



小学生に分かりやすくするために、劇仕立ての説明を考え、実践した。
後について言ってください。
「支え合い、はい」「支え合い、はい」
「わかり合い、はい」「わかり合い、はい」
「心の輪を広げよう、はい」
「心の輪を広げよう、はい」



<生徒会本部役員による臨時集会での説明>

③ 中学校授業体験と中学校説明会 12/17 (火)



<6年生と中学1年生 数学>



<中学校の学習や生活について説明>

生徒会役員が事前の質問事項への回答も含め、わかりやすく説明しました。
「中学校での不安が減り、楽しみになりました。」
「中学校のことがいっぱいわかってよかったです。」
「先輩たちが優しくてすごく楽しく授業ができました。」

《成果と課題》

- ・今年度は中学校説明会に合わせて、1年生の授業に6年生が加わり、授業体験を実施した。6年生は、授業を体験し、中学校の学習や生活の様子をイメージすることができたと思われる。中学校は小学校の延長上にあることを実感したり、不安を軽減したりする機会として非常に有意義であったことがアンケートからも分かった。
- ・中学生にとっても、6年生をリードしたり気を配ったりして授業を受けた経験は、中学生としての成長を実感し、自信をもつことができた。また先輩になるという自覚をもつ機会となった。
- ・授業体験や「子ども未来プロジェクト」啓発のための小学校訪問がスムーズに実施できたことから、各学校の小中連携への理解が進んできたことを実感した。夏の合同研修会において、教科担当者で話し合ったが、合同授業を実施したことでより具体的なイメージになったかもしれない。研修で合同授業をプログラムして実践することも、興味深いものだと思う。

(2) 南河内第二中学校区での交流

①小中交流音楽集会 10月30日(水)

南河内第二中合唱コンクールで金賞・銀賞になった3年生と2年生の4学級が、祇園小と緑小で合唱を披露した。各小学校からは歌のプレゼントやお礼の言葉をいただいた。



〈中学生による合唱曲の披露〉



〈小学生代表者による感想発表〉

②子ども未来プロジェクト説明 11月25日(月)・26日(火)

3年生の生徒会役員5名が小学校に行き、プロジェクトの内容を寸劇にして分かりやすく説明し、実践を呼びかけた。



〈寸劇を披露する中学生〉



〈小学生代表によるお礼の言葉〉

③新入生保護者説明会 12月12日(木)

祇園小と緑小の6年生、保護者が合同で二中体育館にて中学校の説明を聞いた。その後、2年生教室や武道場で授業体験を行った。



〈2年生による歓迎の合唱〉



〈寸劇で紹介する二中の1日〉



〈数学の授業体験：負の数〉

《成果》

- ・合唱の交流は3年目ということもあり、時間的にもスムーズで、よい交流ができた。小学生にも合唱の素晴らしさが伝わった。中学生は一部の生徒の交流であるが、小学生への発表があるということで合唱への意欲に繋がっている。
- ・中学校を会場とする説明会であり、授業を通して直接先輩と触れあうことができたため、小学生は中学校の様子を具体的に理解でき、中学校を身近に感じる事ができたようだ。中学生も小学生に合唱披露や説明をすることで先輩としての自覚や充実感が味わえた。

《課題》

- ・全学年が交流できるような活動を実施していきたいが、小中学校同士の目的や時間、場所や内容の調整が難しい。

(3) 国分寺中学校区での交流

- ① 6 / 2 1 (金) : 国分寺中合唱コンクールを国分寺小6年生見学
- ② 6 / 2 4 (月) : 国分寺小音楽集会参加 (国分寺中3年生による合唱発表など)
- ③ 6 / 2 5 (火) : 国分寺西小音楽集会参加 (国分寺中2年生による合唱発表など)
- ④ 6 / 2 7 (木) : 国分寺東小音楽集会参加 (国分寺中2年生による合唱発表など)
- ⑤ 1 1 / 7 (木) : 国分寺中保健委員会と国分寺小健康委員会 (5・6年生) による活動
「国小健康委員会の子といっしょに手洗い実験をしよう」
- ⑥ 1 2 / 3 (火) : 下野市子ども未来プロジェクトの発表
国分寺小の全校集会において生徒会本部役員の劇による説明
- ⑦ 1 2 / 9 (月) : 下野市子ども未来プロジェクトの発表
国分寺東小の全校集会において生徒会本部役員の劇による説明
- ⑧ 1 2 / 1 0 (火) : 下野市子ども未来プロジェクトの発表
国分寺西小の全校集会において生徒会本部役員の劇による説明
- ⑨ 1 2 / 1 2 (木) : 新入生オリエンテーション (国分寺中へ各小学校の6年生が来校)
生徒会本部役員による新入生への中学校説明会と授業体験など
中学校授業参観 (小学6年生児童保護者向けにも公開)
- ⑩ 国分寺小・国分寺中合同による朝のあいさつ運動 (月に1度・火曜日から金曜日の4日間)
- ⑪ 国分寺小のクラブ活動における国分寺中の校庭貸与 (月に1度)



〈国分寺小における合唱の発表〉



〈国分寺東小における合唱の発表〉



〈国分寺西小における合唱の発表〉



〈小中合同による朝のあいさつ運動〉

《成果》

- ・隣接する国小・国中の交流はさかんで合同のあいさつ運動は、今年度で4年を経過した。あいさつ運動をはじめ昨年度までの交流をすべて継続しただけでなく、今年度は、新入生オリエンテーションにおける小学生の授業体験など新たな試みがいくつか付け加えられた。

《課題》

- ・数多くの交流を継続して実施していくために、小中同士の時間の確保や場所、内容の調整等が難しい。また、児童・生徒の移動における安全確保も課題である。

〈小学生の授業体験〉



(4) 石橋中学校区での交流

「入学説明会」において中学1年生が6年生及び保護者に対して学校行事や部活動・生活の決まり等について説明をし、その後、各学級に分かれ交流学習を行った。中学生がリードしながら楽しく学んでいる姿が見られた。



社会)



(音楽)

《成果》

- ・小学生は授業を「見学」するのではなく「体験」することで中学校の教科学習について理解を深めるができると同時に、授業に対しての不安を取り除く一助になったと思われる。
- ・中学生は6年生に対して「教える・助言する」という経験を通して中学生としての自覚がさらに高まったと思われる。

《課題》

- ・教室の収容人数を考えると中学生・小学生と一緒に教室にて授業を行うのはに困難である。
- ・教育課程上、小学生と共通の教材で授業を展開することは難しいため、50分間の特設授業を実施することになるのが現状である。

3 英語・外国語活動を通じた交流

- ・石橋小学校の6年2組と石橋中学校の1年4組が英語の授業を石橋中学校英語室にて合同で行った。今回は新たに独自の指導案を作成し実践する試みが行われた。中学校生活や中学校の先生方の紹介などについて、中学生が小学生をサポートし、様々な活動を行った。



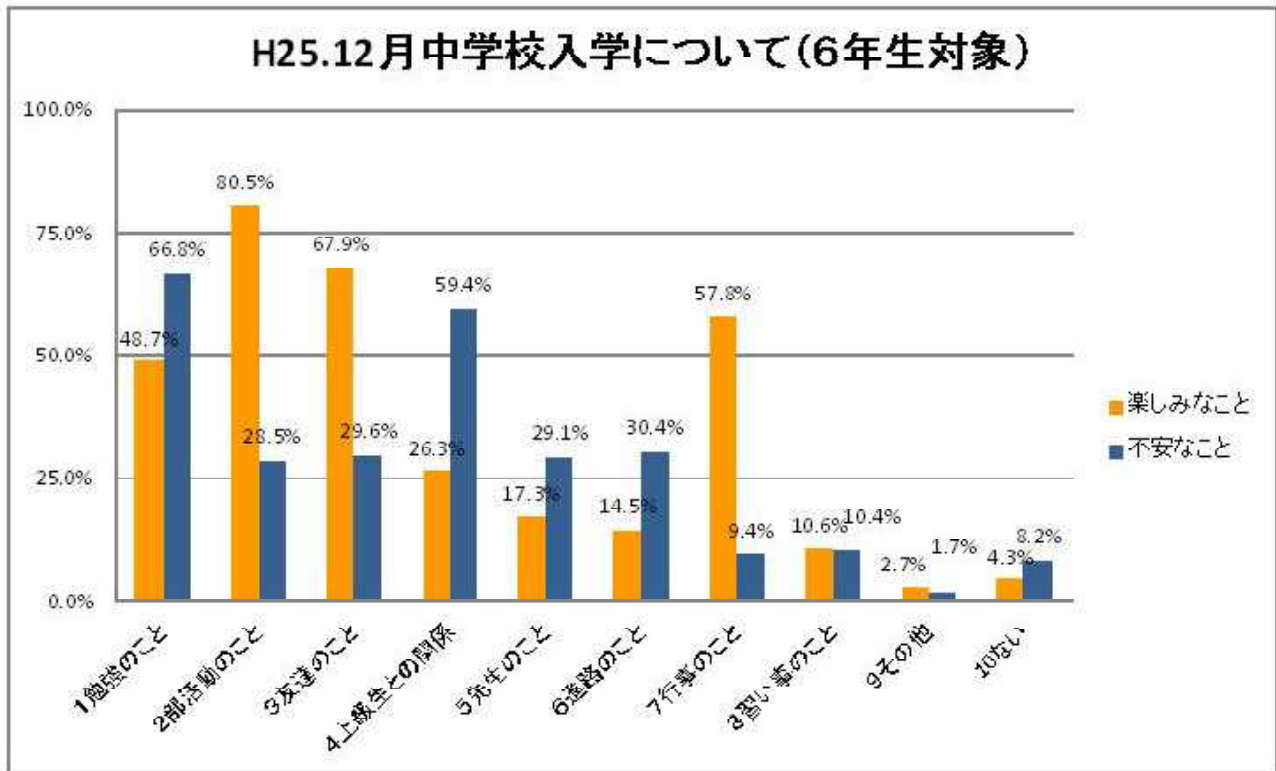
《成果》 ・中学校に関する様々な活動を通して、中学生が小学生をリードし共に活動を楽しむこ

とができた。互いにコミュニケーションを取りながら打ち解け合うことで、中学校への不安や抵抗感が解消されてきた感があった。中学生にとっても後輩を大切に思い、先輩となる自覚も持つことができたように思われた。

- 《課題》
- ・今回は独自に指導案を作成して授業に臨んだ。それにより様々な授業の可能性を見出すことができた。ただ、指導案を作成する際に、中学生と小学生が生き生きと活動し互いに交流できるよう、それぞれに適した活動内容を考えることが大切であると感じた。
 - ・交流事業に向け準備や練習の時間がとればよいが、時間的な問題や先生方への負担を考えると実際には難しいのが現状である。そのため、できるだけ負担のかからないよう授業内容を選択・工夫する必要がある。
 - ・新入生説明会に当てて実施したため、生徒の移動手段の問題について容易に解決することができた。生徒の安全面を考慮し、今後もこの行事と合わせて実施していくと良いと感じた。

4 児童生徒へのアンケートを通じた実態の把握

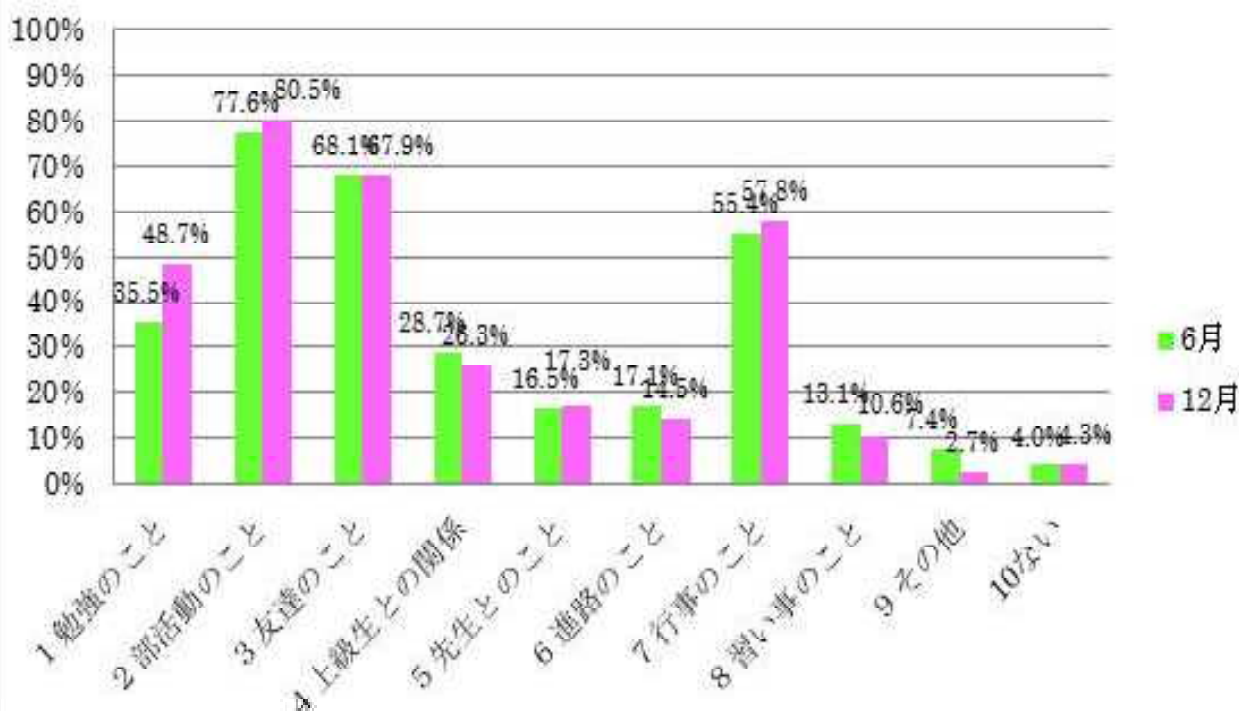
昨年度に続いて、小学6年生には中学入学について、中学1年生には入学後の学校生活についてのアンケートを実施した。6月と12月に同じ内容で実施し、児童生徒の変容も考察したいと考えた。



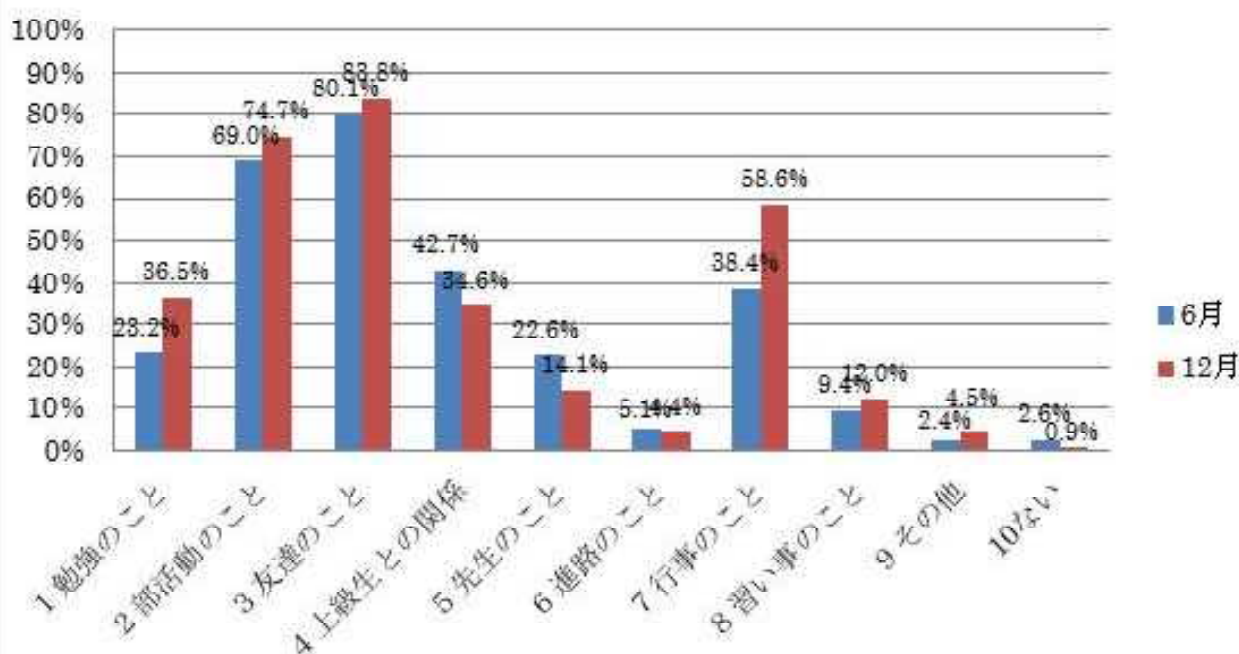
〈6年生の結果より〉

- ・昨年度と同じような結果が得られた。勉強や上級生との関係を心配する姿がうかがえる。しかし、勉強のことを楽しみにしている割合が昨年度に比べて12%ほど増え、半数近くになっている。すべての中学校で入学説明会において体験授業を取り入れた成果であると考えられる。
- ・楽しみなことは部活動のことが最も多く8割の児童が部活動への期待や意欲を持っていることがうかがえる。また、友達のことや行事のことを楽しみにしている児童が半数以上いる。不安もあるが、それ以上に楽しみにしていることもあることがうかがえる。

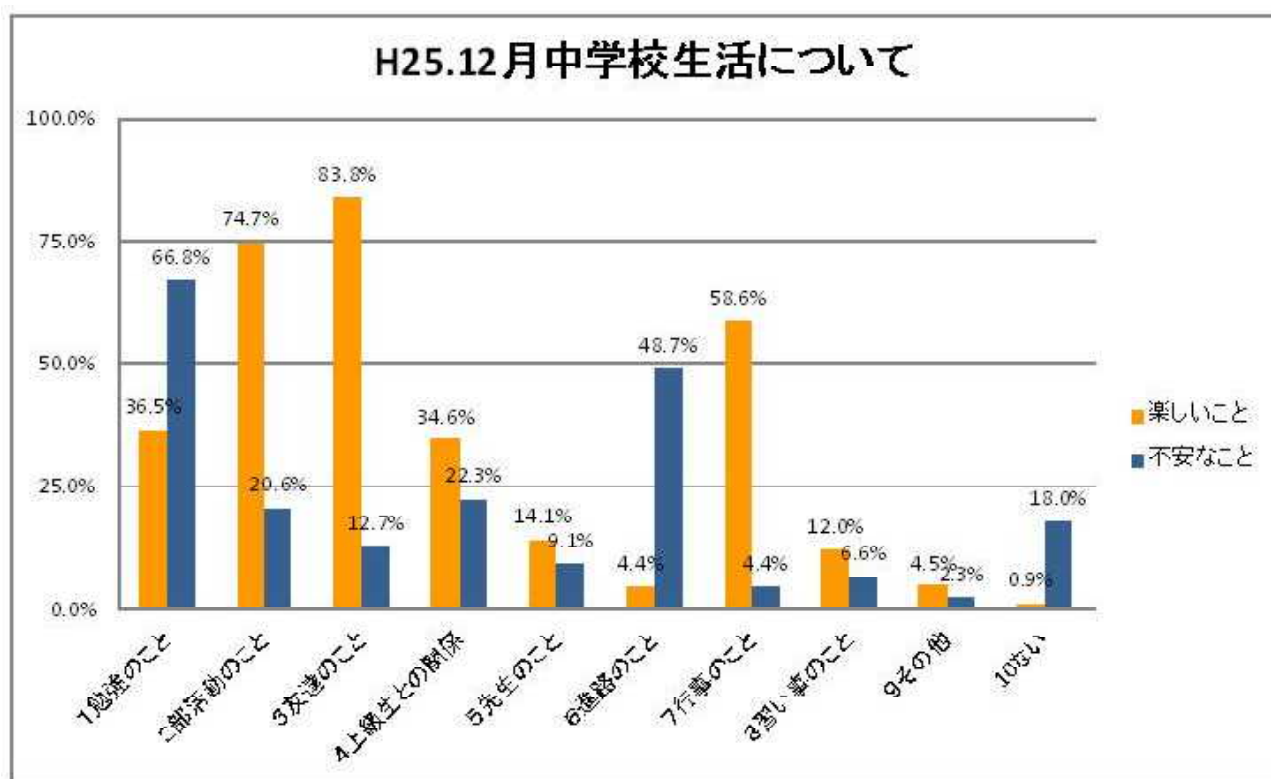
小学6年生：中学校生活で楽しみなこと



中学1年生：中学校生活で楽しいこと



〈中学1年生の結果より〉



- ・昨年度と同じような結果が得られた。勉強への不安はまだ大きく半数を超える生徒は持っているものの、勉強を楽しいことにかけている生徒は6月に比べて約13%増えている。
- ・友だちへの不安についても6月より数値が下がり、特に友だちとの関係を楽しみに考える生徒が8割を越え増えていることが分かる。
- ・進路について不安を持つ生徒が入学前の2倍近くに増えている。中学1年生の6月の実施では約25%だったのが、12月では約50%と増えていることが分かる。

3 成果と課題

- 【成果】
- ・教員の「1日体験」研修は、今年度で4年目となる。異校種の学校での体験から、具体的に指導法の違いや子どもたちへの対応の違いを知ることができ、理解が深まることはもとより、小中それぞれの役割や小中9年間のつながりを再確認する機会ともなっている。
 - ・教職員小中合同研修会において、学習や生活等について情報交換を行い、相互理解をすることができた。事前にテーマを設定して協議を行った学校区があり、深まりが見られつつある。またその必要性を実感した教職員が多かった。
 - ・市内全中学校において、入学説明会の際に小学6年生が中学生と共に中学校での授業を体験し交流する活動を実施した。説明を聞くだけでなく体験することにより、中学校での生活をより具体的にイメージでき、不安を払拭する良い機会となった。
 - ・下野市子ども未来プロジェクトが中学校の生徒会を中心に推進され、児童生徒自身がお互いを身近な存在と感じられるきっかけとなった。
- 【課題】
- ・教員の「1日体験」研修で、中学校教師が小学校において教科の専門性を生かし T1 で授業を行う機会を設定することが望まれる。
 - ・教職員の合同研修は中学校区ごとに地域の実態に応じて協議の内容や部会の構成を検討する必要がある。
 - ・中学校区ごとに作成した「生活のきまり」の活用が十分でなかったとの反省点があげられた。小中9年間を見通した生活指導のスタンダードとして活用が期待される。